

日時 : 2007年7月18日(金) PM 1:00 ~ PM 4:10
場所 : 塗料報知新聞社 会議室
出席者 : 窪井氏(久保井塗装工業所)、早川氏(第一塗装工業)、小泉氏(小泉塗装工業所)
島田氏(旭サナック)、内山氏(東和酵素)、
アドバイザー:坂井氏(日本工業塗装協同組合連合会技術顧問)
オブザーバー:神田氏(日本工塗連)、平野氏(CEMA)
事務局:有馬弘純氏(塗料報知新聞社)

1. 議題

(1) アンケート収集結果の報告(内山氏)

塗料使用量、溶剤使用量などを除く分析結果の報告

日本工塗連会員企業 241 社中 86 社

<質問・回答>

- ・ 前処理を行っていない企業(36%)の実態は何か。(島田)
→溶剤・アルコールによるワイピングが主体。VOC排出のポイントでもある。(坂井氏)
- ・ 産業廃棄物の金額
→汚泥:18~19 円/kg
→酸・アルカリ廃液:25 円/kg
→廃油:1000~3000 円/缶(バラツキ大きい)
→廃シンナ:800 円/缶
→廃塗料:3000 円/缶
→廃プラ:35 円/kg(オープンドラム(缶)の場合は金額が異なる)
→ボンデ・スラッジ:12 円/kg
業者の金額差はある。中間処理業がある場合は安い。(処理品毎に分けてもらえる)
分別すると安くなる。ダンプ系のトラックは高価、パッカー車は安価。
データから、洗浄回数が~10 回/日と多く、洗浄時のVOC削減が効果ある。
次項の検討議題で協議した。

(2) 具体的な対応の検討案

洗浄時のVOC削減案を示し、簡易フロー手順図、部品にて対策案を説明(島田)

- ・ 圧送装置を含む塗装に有効。
- ・ モデル企業選定。第一塗装工業、久保井塗装工業所 の2社にて8月中に評価する。

これ以外に、メイン色に対し、圧送装置~ガンのシステムを固定し、色替を行わない方法も有効。

※来月よりシンナのコストUPが予測されている。また、現在物価高、エネルギー高となっており、使用量を減らす取り組みが企業を救う。(早川氏)

(3) 情報提供

① ブース水のVOCと臭気について(窪井氏・内山氏)

ブース水の消臭としてバイオを使用している企業の状況が報告。

臭気無く塗装環境が非常に向上していた。

バイオ(菌)は、カーボンブラック、メタリックフレークは分解できない。一般的 30%の産廃量が減る。特にクリアライン専用の場合は顔料がないので、90%近くにもなる。
 ブース水の浄化指標(MLSS)があり、産廃削減とVOCとの関係を示す形で評価したい。
 久保井塗装所でもバイオ実施。塗料種類、使用量が異なるが、相対的にケミカルと比較した結果を分科会に提出願う。

② 水性二液塗料(武蔵塗料の事例)(窪井氏)

塗料メーカー訪問。PPで説明を受けた。

85~98%のユーザ要望に答えられる商品をそろえているとの回答。

VOC削減量 溶剤→水性転換 VOC75%→VOC14%

(NV25%)→(NV25%)同じ

ポットライフは短くなる。二液混合ガンなどの装置が必要となる。

事前混合 カップガン塗装で将来性を感じた。

③ VOCモデル工場について (窪井氏)

東京都立産業技術センターの協力で、VOC排出測定モデル企業として8月に排気ダクトのVOC測定を実施予定。(お盆前にでも実施)

今回の対策案であるカプラ洗浄も同時に評価してもらうこととして進める。

以上の実施事項の効果を公開させ、業界に浸透させる。

2. 情報公開手段

- ・ 工塗連ニュースに毎回掲載。
対策内容とその効果を連載していく。
- ・ 工塗連主催の塗装セミナー開催
セミナー名決定:『ECO(エコ)で儲ける』
→成果を集約し、生のお話でVOC削減事例・効果を紹介。
→テーブルブース出展、カタログ置き場検討。
→各地域の開催も検討すべき。
→対象:日本工塗連会員、全国の非会員、行政、塗料メーカー、塗料販売店

以上から、今後の活動スケジュールが決められた。

3. 活動スケジュールの確認

年	2008					2009					
月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
項目	① ←→		② ←→	③ ←→			④ ←→		⑤ ←→		⑥
会			10/3								

- ① 洗浄のVOC対策(カプラ)。
- ② 臭気・ブースの対策(バイオ)。
- ③ 産廃の対策。(排気、スラッジ)
- ④ 塗料の対策。
- ⑤ 塗り方・機器の対策。
- ⑥ 塗装セミナー開催“ECO(エコ)で儲ける”

以降 2010年3月まで行政の動きをみながらCO₂など新テーマの取り組み、普及活動を継続。

2008年4月ペイントショー2010大阪開催

4. 次回開催予定

2008年10月3日(金)午後1時～塗料報知新聞社会議室

<予定議題>

1. ①(洗浄:カプラ構造)、②(バイオ)、③(産廃:排気、スラッジ)活動進捗、結果について発表
2. ④(塗料)、⑤(塗り方、塗装)の細目テーマ決め、実施体制
3. ⑥セミナー運営(日時、会場、参加費…)

————— 以 上 —————